

泉源からの総放出エネルギーの評価と各種利用の一部を記載する(第5表)に留まっている。

今後 地熱開発の進展に伴って どの程度の地熱エネルギーが実際に使われているかを統一的に把握することが重要になるものと思われる。 そのための基礎として 統一方式の検討が必要であろう。 同時に 地熱地域あるいは多目的利用の総括的な報告には 統一された形式のデータ表に要求される項目を必ず記載することが望まれる。

以上述べた資源に関する項目の一部 そして第3表に示した経済性の検討の結果以外については 現在作業を進めており その内容は別の機会に報告する予定である。 なお 第4 5表の内容に関する文献も 総括的な報告に掲げることとし 今回は省略させていただいた。

#### 4. おわりに

原油価格の急上昇は 先進諸国はもちろんだが それ以上に開発途上国の経済に対してより重大な影響を与えている。 このような状況下 石油以外の安く 安定したエネルギーの開発は 開発途上国のみならず先進諸国を含めた世界経済の正常な発展のための最重点の課題といつてよいであろう。 地熱エネルギーは 国連の援助活動ですでにエル・サルバドルやケニアなどの国々において利用が始まっており 新・再生エネルギー会議を契機に より一層開発が促推されることが望まれる。

同時に 日本をはじめ アメリカ イタリアなど地熱先進国にとっても 地熱パネルそして本会議での討論が技術面での総括となり 将来の地熱エネルギー開発に資するところが多いものと期待される。

#### 地学と切手



中米エル・サルバドルの  
サン・ミゲル火山切手

#### P. Q.

サン・ミゲル (San Miguel) 火山はエル・サルバドルの東南部にあって 標高2,132mの孤立した円錐形の火山で 絶えず噴煙を上げている。 世界で一番古い火山切手は1867年にエル・サルバドルで発行されたこの切手といわれている。 もっとも1862年にニカラグアがモントンボ火山を 1863年にボリビアがポトシ火山を画いたという切手を発行しているが いずれも叙章的であり現実的でない。 最初の名誉はやはりサン・ミゲル火山のものである。 この切手は4種1組で エル・

サルバドル最初の切手であるが サン・ミゲル火山はその後もしばしば切手の図案として採用された。

この火山は1586年にはすでに頂上部が破壊されて火口からは噴煙が上がっていたが それ以前には山頂は尖っていたといわれているので 1586年の遠くない以前に山頂部を破壊した大噴火があったものと想像される。 それ以後は山頂火口から噴煙を上げる活動が多く 熔岩流は主に側火口から 1699 1778 1844 1855 1867年に流出して山麓に拡が

り 1884年と多分1931年には山頂火口から噴出した。 非常に激しかったのは1844年の噴火だった。 熔岩の大部分は橄欖石普通輝石玄武岩である。

- 1r 1867年 最初の4種のうちのひとつ、火山を画いた切手としては世界最初
- 1c 1891年 発行10種のうちのひとつ
- 1c 1896年 発行自由の女神とサン・ミゲル火山
- 5c 1896年 発行
- 50cと70c 1967年 切手発行100年記念2種